

---

ゼ・・・ゼロ？！

FrangBeat

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゼ・・・ゼロ?!

### 【Zコード】

N1573Z

### 【作者名】

Fran gobeat

### 【あらすじ】

ルイズは使い魔の平賀才人の故郷“東京”へとやってくる。  
そこで繰り広げられる、闘いを描く。

## 「ゼロ・ド・ゼロ」

「や、やめてくれ……！」

「あんたたち愚鈍どもが、私を襲おうとするなんて。無礼にもほどがあるわ……！」

長い桃色のブロンドと薔薇色の瞳をした女の手は男に向かつてせり言い放つた。

「てめえ、何もんだよ？？？？」

「私の名前は、ルイズ！！！ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエールよ！！！覚えておきなさい！！！」

「何？！…ヴァリエール家の三女？！…とは…ゼロのルイズか！！？？」

「（カチン）誰がゼロよお～！！誰が…………（怒）」

ルイズと名乗る、その少女は杖を取り出し呪文を唱えた。

次の瞬間。

ドカーン！！！

あたり一帯が黒い霧になつた。

「だから、やめひつて言ったのに…………」

パタン。男は倒れた。

「ふん！私に襲い掛かってきた罰よーー！」

## First travel

「おい、ルイズ！！起きろって！！」

誰かが、私を起こしてる・・・誰・・・？

「ルイズ！！！」

ああ・・・才人か・・・

「おはよっ・・・才人・・・」

「やつと起きたか。遅いぞ。」

「才人・・・キスして。」

ルイズは寝ぼけ眼で才人に言つた。

「え？！」

当然、才人は驚く。

「じゃないと起きない。」

「・・・わかったよ。」

才人は優しく、ルイズの唇に自分の唇を当てた。

「うん！これで起きられる！おはよ！才人！！」

以前のルイズなら考えられなかつたが、ルイズは自分の気持ちに正直になり、才人に「好き」だと告白した。

「つたく・・・えらい変わりようだよな・・・」

未だに才人の左手にはガンダールヴの印が刻まれている。

「だつてえ・・・一緒にいる時間が長ければそうなるわよーー!」

「はあ・・・ほら、行くぞ。」

「うんーー!」

(しかし、このルイズの変わりよう・・・悪くはないが・・・慣れないな・・・)

「で、どこに行くの? ?」

「アンリエッタ王女のところ。昨日、連絡がきてさ。あしたどうしても頼みたいことがあるとかで。」

「そつか~・・・(アンリエッタ王女・・・まだ才人のこと狙つてのかな・・・不安・・・)」

「失礼します。」

「あ、才人さん。」

「アンリエッタ王女。早速ですが、頼みたいこととは?」

「ふふふ。頼みたい」とはこれです。」

アンリエッタは才人とルイズに一枚の地図を渡した。

見た瞬間才人の目つきが変わった。

「王女！…これは！…！」

「はい。才人さんの故郷”トウキョウ”の地図です。秘密経路で入手しました。」

「これから、竜の羽衣に乗つてこのトウキョウに行つてもらいます。」

「え・・・？才人・・・帰っちゃうの・・？？」

「なんでもまた？？」

詳しい話は1時間にも及んだ。

その話を聞き、才人は了承した。

「あ、言い忘れてましたが。ルイズ。あなたも行くのですよ。」

「え？・・・・・王女！…ありがとうございます！…！」

「出発は明日です。では。」

二人は王家を後にした。

「東京か～～・・・・・懐かしいな～～・・・・

「ねえ・・・才人・・・・」

「ん? ?どうした?」

「明日は早いし、もう寝よづよお～。」

「そうだな。寝るか。」

つい癡でいつもの草布団へ。

「あ、才人。こっちこっち。」

自分の寝ている布団へ手招きするルイズ。

「あ、そうだった。」

才人は布団に入つて眠りに・・・・

ギュ・・・ん? 暖かい・・・

ルイズが抱き着いていた。

「ル、ルイズ! ! ! お前!」

「ええ～・・・ダメ～・・・? ?」

その顔はとても可愛く、抱きしめたくなるような顔だった。

「わかつたよ。ルイズ。」

「やつた！おやすみ才人お・・・・」

「おやすみ・・・」チユ・・・

唇に唇を重ねた。

・翌日・

「さて、出発するとすつか！――」

「うん――」

部屋を出て、竜の羽衣（ゼロ戦）のどひるくと向かう。  
そこにはすでにコルベール先生や学院の生徒たちが大勢あつまっていた。

生徒たちは言葉言葉に「気を付けてな――」「トウキョウのお土産よろしくな――」「さびしかつたら戻つてこい――」といつていた。

そんな言葉がルイズの心にしみた。

「また帰つてこれるのにね・・・」

「ああ・・・」

「さて、もう出発しようか。操縦方法はわかるね？才人君。」

「はい。忘れたんですか？俺は”神の左手ガンダールヴ”ですよ？」

「ははは……そうだったな……」

竜の空衣はプロペラを回し、その機体を空へと飛び立たせた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1573z/>

---

ゼ・・・ゼロ？！

2011年12月5日19時06分発行